

## 研究専門部会長

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2009-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阿部, 直人 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/4302">http://hdl.handle.net/10291/4302</a>

## 〔研究専門部会長所見〕

阿部直人

2004年5月に突然情報科学センターの研究専門部会長になるように話がありました。研究室のLANや学科のwebサーバ、メールサーバなど情報科学センターのサービスにお世話になったり、他学部の情報処理論を担当したりしたことはありますが、運営に関することはまったく初めてのことであり、どうなることかと少し不安はありました。始めは会議室のある建物がどこにあるのかにさえわかりませんでした。各種会議が幸いにも(?)頻繁にあるため、一ヶ月で慣れてしまいましたけど。

はじめの大きな仕事は「高額ソフトの選定」でした。今回ははじめて予算額を大きく上回る申請があり、ヒアリングを行ないながらいかに公平な選定を進めるか苦慮しました。本来高額ソフトは「研究」が主な対象でしたが、大学のインフラが整ってきたり、社会的な要請から、「教育用」の申請が多くなってきています。教育用は購入本数が多くなり限られた予算ではすべてをまかないきれません。今後は学部との連携など新しい方策を模索する必要を感じます。

高額ソフトの継続使用はいままでごく簡単な報告書で認められてきました。しかし、ソフトウェアのライセンス形態は様々で、購入価格以外にも毎年購入額の15%程度の保守料を取るものが増えてきています。研究用高額ソフトを「サービス」ではなく「研究補助」と位置付け、今後はより有効に納入したソフトウェアを利用させていただくために、研究用高額ソフトについては来年度から業績リストの提出を義務付けることになりました。継続利用に制限を付けるのではなく、適正に執行していることを示すためだにご理解をお願いします。

現在は文部科学省平成15年度選定「特色ある大学教育支援プログラム」に関してデジタルコンテンツ作成のプロジェクトに多くの時間を割いています。研究専門部会とは直接関係ありませんが、大学の新しい教育支援として是非とも良いものを作り上げていきたいと考えています。このプロジェクトには多くの先生の協力が必要になります。多少無理なお願いをすることもあるかもしれませんが、是非ともご協力をお願いいたします。

その他研究専門部会としては、情報技術研究会の開催を秋に予定しています。多くの方の参加をお待ちしております。

就任してわずか数ヶ月ですが、情報科学センターは教員よりもむしろ多くの事務の人の支えで運営されていることを痛感しています。今後もよりよい情報科学センターを目指して努力していきます。

## 【論 壇】

## 「教育の情報化」私見

吉田 悦志〔二部教務部長〕

私には随分前に観た映画が、脳裡に刻み込まれている。トム・ハンクス主演の「フィラデルフィア」である。きわめて有能な青年弁護士が、HIVと診断され所属事務所を解雇される。トム・ハンクスが演じたのが、この青年弁護士であった。希望に満ちた順風満帆の人生が約束されていた青年が、突如社会的評価も声望も失ってしまう。この絶望の淵からかれの闘いが始まる。闘いそのものがこの映画の筋立てである。

社会的な偏見、蔑視や差別と闘う青年の姿が、私の脳裡に刻まれたことを説明するのに贅言は要すまい。ことは、映画の筋立て全体に関わるだけではないのである。登場人物の単純明快な「会話」が、私の脳裡に刻み込まれたのである。高名な法律事務所を解雇された青年弁護士は、友人である黒人弁護士に会いに行く。訴訟に向けて、彼はその友人に弁護を依頼する。その時のやりとりが、私には忘れがたいのである。

友人である弁護士は、トム・ハンクスにこう言う。君の言うことが10歳の小学生にも分かるように説明できたなら、私は君の弁護を引き受けよう。黒人弁護士の常套語なのである。ある時は14、5歳になったり、幼稚園の子供になったりもするが、主旨は一貫している。誰でも理解できる言語で語れ、そう黒人弁護士は言っている。裁判に勝つためには、相手を説得し正義を貫く、そのような明快で分かり易い言語こそ必要なのであると。

ところで、今氾濫している情報関連の用語は、この「フィラデルフィア」に登場する黒人弁護士に弁護を引き受けてもらえるかどうか。答えは言わずもがな、であろう。

私もひとしなみに、パソコンを使う。原稿を書き添付ファイルにしてメールで送る。メールだけで使う場合も多い。検索エンジンやホームページを使って資料を集めることも多い。デジカメで撮った資料写真を保存し適宜利用している。本来の用途ではないので管財部の方から叱責されるかも知れないが、ゼミの学生が私の健康を案じてオムロン製のデジタル万歩計を、誕生日のプレゼントにくれた。その歩行記録を毎日パソコンに蓄積している。今月の一ヶ月平均歩数は七千歩とか、これでは少ないから来月は、などという利用もしている。3、4年の演習用に吉田ゼミのホームページも作っている。「教授紹介」「ゼミ研究テーマ」「活動内容」(原典研究・卒論研究・合宿等に分類)「掲示板」「酒悦会(OB)通信」「談話室」などを設けて学生とともに利用している。8年前に作成して、今55700件のアクセス数である。

「Oh-o!meiji」も多少は利用している。「クラス・ウェブ」も簡単なシラバス程度は掲げている。もっと使いたいという積極的な気持ちは勿論ある。「ポータル・ページ」もほぼ毎日みている。出来れば希望する先生には従来通り郵送するけれども、「ポータル・ページ」だけで「教授会」や「各種委員会」通知はこと足れり、とする先生にはそうしていくべきであろう。「Oh-o!meiji」システムで、記憶力の悪い私にとって役立つのは「専任教員データベース」である。このページは私の備忘録である。あまり肩肘張らず気楽に利用させてもらっている。必要に応じて自分史をそこから取り出すことが出来る。

無論明治大学のホームページもよく使う。